

2011. 5. 25

# コミュニティ福祉学科通信

静岡学生ボランティアいわて応援隊活動報告会速報

5月25日(水)11時から静岡英和学院大学新館5階講堂にて、活動報告会が行われました。



報告によれば、被災者の方達のニーズ調査に参加したとのこと。このニーズ調査は、支援活動を継続的に続けていく上では、必要不可欠な仕事です。実際には、「被災した方にかかる言葉を選んでしまいがちになり、円滑なコミュニケーションも図りにくかった」のだとか。でも、その中で「自分が被災者になったらどうなのか？」それを現場で深く考えることが出来たとのことでした。とても貴重な体験です。

ニーズ調査の一方で、ユニセフボランティアは、被災地の子どもたちと一緒に過ごすボランティアに参加しました。被災地の子どもは、避難所の中で大きな声を出したり、遊んだりが出来ない状況が続いています。そこで、一時でも震災のことを忘れて笑顔でいて欲しいという気持ちで、子どもたちとの交流を行ったとか、「子どもたちの状況はわからないけれど、『ありがとう』と笑顔を見せてくれる子どもたちに勇気をもらった気がします」との報告でした。

参加したスタッフの一人、コミュニティ福祉学科の見城陽子さんに少しだけ話が聞けました。「私は後半のユニセフボランティアで参加しましたが、やはり、子どもさんの被害状況が違って、親を亡くした子どもさんもいるし、避難所に家族でいる子どもさんもいる。言葉を選ぶことに慎重になりました。みんな笑顔で喜んでくれたのですが、本当の深いところは辛いものを抱えていると思うんですよ。だからこそ、継続的な支援が必要ですね。」と話しをしてくれました。現場に足を運んで感じた気持ちですね。

私たちは、被災地の方々のことを忘れてはいけません。改めて、僕らが出来ることを考え、実行し続けていくことが大事だと思いました。皆さんお疲れ様でした。本当に有り難うございました。

学科ブログです。



アクセスしてね。

次回オープンキャンパスのご案内  
6月18日(土)13:00~

模擬授業  
大震災とボランティア活動  
災害時のお年寄りや障がい者は...  
青山登志夫教授

お楽しみに!